

わが街で暮らす

諏訪市地域医療・介護連携推進センター

ライフドアすわの取り組み

地域包括ケアシステムを支える人々

54

私たちの暮らす街にもいよいよ高齢者が増えてきました。

介護が必要となった時に相談する人は誰でしょうか？おそらくケアマネジャーに相談する方が多いのではないのでしょうか。ケアマネジャーは介護の一番初めの窓口だと思っています。今回はケアマネジャーの仕事や役割についてご紹介します。

ケアマネジャーは利用者の生活の困りごとを聞き介護サービスを調整し、生活のマネ



「煙仕事をしたい」仲間と
最大限に活かし可能な限り自立した生活が送れるようにケアプランニングしていきます。

人と地域の架け橋

高島 ころころ 居宅介護支援事業所
高島 太郎 主任介護支援専門員

おきしま たらう 沖島 太郎

俳句を楽しみたい」「自分でできる家事は行いたい」「望む暮らしの形は皆さん違います」「小さなことでも自分でできることは生きがいとなり、やがて「自分らしい生活」となっています。

日常生活で支援が必要な部分は介護サービスを組み入れていきます。日常的に介護が必要であれば訪問ヘルパーやデイサービスなどの利用、医療の必要性があれば主治医に相談、認知症で金銭管理ができない場合は成年後見制度の活用など、ケアマネジャーが中心となり様々な支援機関につないでいきます。

日々、ケアマネジャーとして皆さんと接していると、皆さんの暮らしの変化や地域の課題が見えてきます。近年は新型コロナウイルス感染症終



デイサービス利用者と和やかに会話をするケアマネジャー

禍の生活は、外出自粛を余儀なくされる人との繋がりが希薄化、閉じこもりの生活は身体機能にも影響を及ぼしました。その他にも高齢化する親世代と介護する子世代に広がる8050問題、増加する認知症の方の支援、そして同居する家族支援など、介護に関する問題は多様化し社会の問題へと広がっており、介護保険制度だけで支えることは困難となっています。そのため

「誰もが高齢になっても自分らしい暮らしを続けられる」そんな街づくりを目指し、今後も地域みんなで知恵を出し合い取り組んでいきたいと思えます。

2017年に「ライフドアすわ」が開設されたから多職種連携という意識が高まりました。研修を通して顔の見える関係となり、多職種で連携の取りやすい仕組みが形成され、地域課題に対し多職種で考える取り組みが始まっています。「医療と介護の連携シート」や「もしもシドクター」・「もしも歯医者さん」(医師との連絡方法が書かれたファイル)ができたことで医療と介護の連携がスムーズになりました。

東後の暮らしの変化が大きな問題となっています。コロナ 医療・介護・福祉、地域住民等が協働し地域全体で包括的

ケアマネジャーの役割

(毎月第2日曜日掲載)